

特集 2023-2025年

2025年中期経営計画

持続的な成長を目指す2025年中期経営計画「Leap Forward to the Next 2025」が始まります。

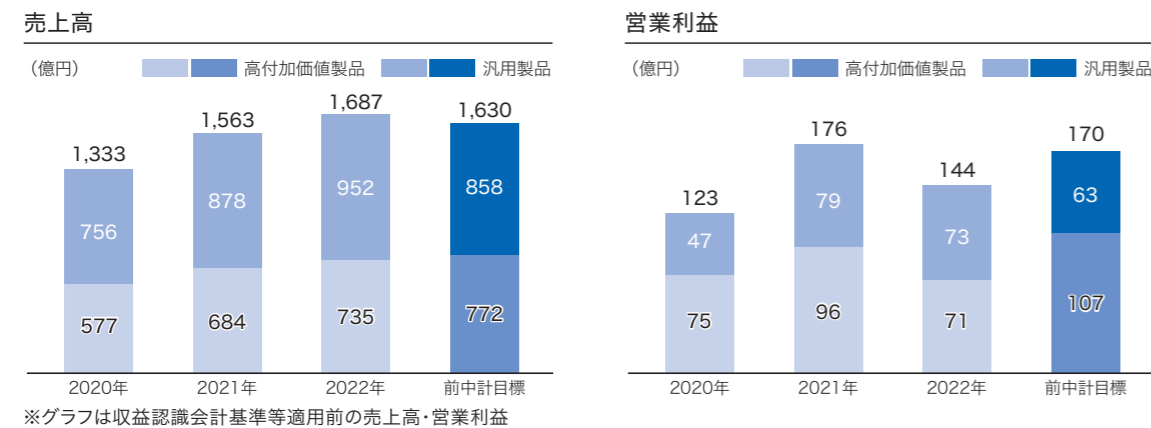
前中期経営計画(2020-2022年) 「Stage up for the Future」の振り返り

数値目標と成果

	2022年目標	2022年実績
*売上高	1,630億円	1,687億円
*営業利益	170億円	144億円
*営業利益率	10.4%	8.6%
*EBITDA(利払い前、税引前、減価償却前利益)	270億円	249億円
*高付加価値製品売上高比率	47%	44%
設備投資額(前中計期間累計、検収ベース)	440億円	484億円
*海外売上高	325億円	314億円
*海外売上高比率	20%	19%
EPS(1株当たり純利益)	106円	101円
ROA(総資産経常利益率)	7.0%	6.3%

*収益認識会計基準等適用前の数値

積極的な設備投資や新事業創出に向けた取組みにより、大部分の前中計数値目標は2021年には達成したものの、最終年の2022年は景気減速の影響などにより営業利益などの目標が未達となりました。



重要施策の成果

① 新事業創出機能と研究開発機能の強化

DDS(ドラッグデリバリーシステム)に適する細胞膜透過性ペプチドの開発、セルロースナノファイバーの量産化検討など、当社グループの将来を担うことが期待されるいくつかの新事業候補が生まれています。また、高岡創造ラボ、R&D 総合センター第2技術開発ラボを開所し、研究開発機能を強化しました。

② 瞬間接着剤等の海外展開推進

中国では一般用瞬間接着剤のeコマースを開始、アメリカではテープや光硬化型瞬間接着剤を上市し品揃えを拡充するなど、接着材料事業のグローバル展開を推進しました。また、東亜合成(張家港)新科技有限公司を完全子会社化し、光硬化型樹脂の海外生産体制を強化しました。

③ デジタルトランスフォーメーション(DX)による競争優位性拡大と機能強化

生産活動、営業活動など様々な分野でDXへの取組みを進めていますが、特に研究分野ではマテリアルズ・インフォマティクス(MI)の活用により、複数の研究開発テーマで有益な結果が得られ、新規接着剤の開発などで成果をあげることができました。

④ 成長戦略の担い手となる人材の確保と育成

企業理念、行動憲章の浸透を目的に海外グループ会社の現地スタッフへの教育プログラムを実施するなど、海外展開を支援する取組みを推進しました。

⑤ サステナブル経営の推進

水素を製造している徳島工場の隣接地に、全国初となる製造・供給直結型の東亜合成水素ステーション徳島を開所し、燃料電池車や燃料電池バスに水素の供給を開始しました。

次期中期経営計画に向けた課題

① 高付加価値事業の拡大

前中計で生産能力の増強投資を行った高純度液化塩化水素、高機能アクリルポリマー、機能性接着剤などの高付加価値製品の収益向上を図ります。

② 新事業創出

前中計で開発が進んだ細胞膜透過性ペプチド、セルロースナノファイバーなどは早期に実績化し、当社の柱となる新事業として確立させます。

特集 2023-2025年 2025年中期経営計画

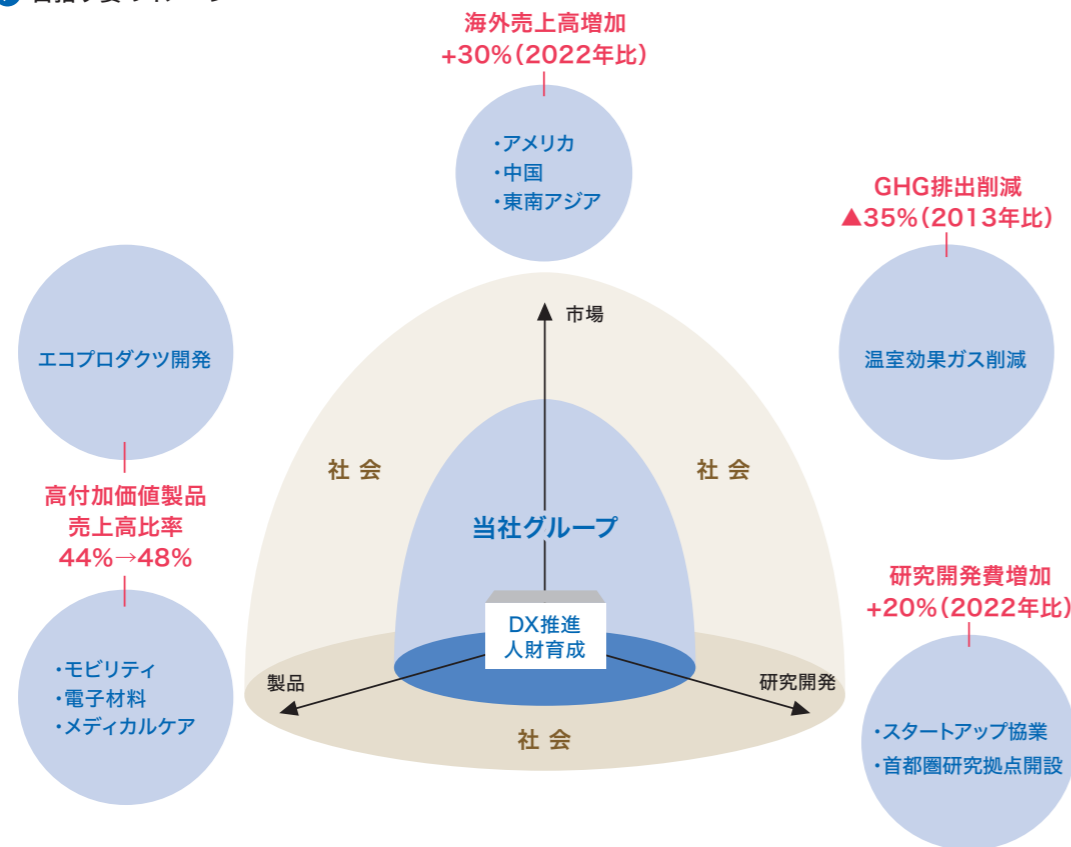
2025年中期経営計画(2023-2025年)の 目指す姿と基本方針

目指す姿

Leap Forward to the Next 2025

前中計で成果のあった高付加価値事業の拡大や新事業創出による当社グループの成長を加速します。2025年中計では、デジタルトランスフォーメーション(DX)推進、人財育成を核とし、市場・製品・研究開発の軸で当社グループの領域を拡大し、成長を目指します。また、温室効果ガス削減、エコプロダクツ開発などを通じ、持続可能な社会の実現に貢献します。

目指す姿のイメージ



基本方針と重要施策

基本方針

新製品・新技術の
開発力強化

研究開発力をさらに強化することで、モビリティ、電子材料、メディカルケアを注力分野として競争力のある独創的な製品や技術を継続的に生み出し、当社グループの将来を担う新事業を実績化します。

海外売上高の拡大

世界で成長が期待される市場での生産、販売活動を展開し、高付加価値製品のシェア拡大を図ります。

持続可能な社会の
実現に貢献

当社グループ内での温室効果ガス(GHG)排出削減への注力に加え、社会における環境課題の解決に資する製品や技術の提供により、持続可能な社会の実現に貢献します。GHG排出削減にあたっては、きめ細かな取組みを着実に実施します。

重要施策

1 伸ばす事業に経営資源を積極投入し国内外での展開を加速

既存事業の中の強化すべき事業および新規事業にメリハリをつけて経営資源を投入します。前中計でのシェア拡大の取組みを継続しつつ、将来を担うセルロースナノファイバー製品、メディカルケア製品を早期に市場投入し実績化を図ります。また海外では、アメリカ、中国、東南アジアを中心とした需要旺盛な市場でのモビリティ、半導体、電池、高速通信分野向け材料の事業体制を拡充することにより、ポリマー・オリゴマー事業、接着材料事業、高機能材料事業を中心とした高付加価値製品の海外展開を加速させます。

2 研究開発力の強化

事業の拡大、新規事業の開発を加速するため、研究開発力の強化に積極的に経営資源を投入します。この一環として、スタートアップ企業との協働も積極的に進めます。また、顧客の近くで、顧客とともに研究を行うことで開発をスピードアップさせるため、首都圏に研究拠点を設置します。

3 デジタルトランスフォーメーション(DX)推進を浸透・拡大

DXを推進し、MI(マテリアルズ・インフォマティクス)や分子シミュレーションの活用、スマートファクトリー化、AI活用、デジタル人財育成などを進め、グループの競争力と事業体質の両面を強化します。

4 先見性を持った人財の確保と育成

仕事に対するモチベーション向上を意図した人事制度を実施するとともに、専門人財を積極的に採用します。さらに海外人財の登用やリスクリテラシー計画を策定・実施することで、多様化する社会に対応した人財の確保と育成を図ります。

5 サステナブル経営の推進

2050年カーボンニュートラルを目指したGHG排出削減ロードマップを実現するため、生産効率の向上によるエネルギー消費の削減に取り組むほか、調達面でもグリーンエネルギー発電導入などの施策を実行します。また、エコプロダクツの開発を進め、顧客の環境課題の解決に資する製品・技術の提供に注力します。